



作中で「東名大学」となっている中央門

日本テレビ系で放映中のドラマ「厨房のありす」に、理工学部船橋キャンパスが撮影協力しています。8号館の実験準備室をはじめ、キャンパス内の各所で撮影が行われています。



作中で研究室として使用されている 828 実験準備室

# 工化時報

第40号



Since 1938

**MAC**  
DEPARTMENT OF  
**MATERIALS  
AND  
APPLIED  
CHEMISTRY**

## 工化会会長あいさつ

工化会会長 伊藤和宏

(昭和 59 年修士修了)



すでに、工化会ホームページではご挨拶をさせていただいておりますが、紙面上では、初めての挨拶となります。昨年の 2023 年 5 月 20 日に開催いたしました工化会(日本大学理工学部校友会工業化学部会)通常総会にて、前会長 太田延幸様から工化会会長の職を引き継ぎさせて頂くことになりました伊藤和宏(昭和 57 年学部、昭和 59 年修士課程修了)でございます。

現在、伝統のある同窓会の運営のかじ取りを務めさせていただくことに不慣れなことばかりですが、前会長をはじめ、工化会役員の方々、物質応用化学科等の先生方、会員の皆様からのご助言・ご協力を賜りながら職務を進行させていただいております。これからも微力ながら本部会の活性化を目指して遂行していく所存でございますので、ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

次に、2024 年の年明け早々に発生いたしました能登半島地震により、多くの方の尊い命が失われたことに深い哀悼の意をささげます。また、同時に被災された方々及び地域の皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

このような衝撃的な新年のスタートとなりましたが、昨年、2023 年を振り返りますと、社会環境の大きな変化は、5 月に新型コロナウイルス感染症が 2 類から 5 類に移行され、活動範囲が緩和されたことではないでしょうか。人的交流も平常化に戻りつつ、国内の経済・文化等の社会活動は正常化に向けて大きく前進いたしました。しかし、一昨年に始まった米国の金利引き上げに起因する円安の進行、ロシア・ウクライナ紛争、ハマス・イスラエル紛争等に起因する品薄状態により、物価上昇などが日常生活に大きな影響を及ぼした年ではなかったかと思えます。

2024 年は、干支で言えば「甲辰(きのえ・たつ)」という年だそうです。甲辰は、旧体制を破り、慎重に新しい創造を起こしていく年「大きく育つために種が栄養を蓄え、姿を整え、実りの日を待つ」といった縁起の良さと様々な変革が起こりうる年と言われているそうです。

会員の皆様にとっても、色々な社会環境の変化を受け入れて行かなければならないことになると思いますが、負けずに善き 2024 年になることを祈念いたします。

さて、本学の状況ですが、度重なる不祥事に対し、会員の皆様にご心配をおかけしております。組織の統治問題が指摘され、ガバナンス体制が見直されています。その一つとして、本部会の上部団体である日本大学本部校友会の体制も刷新されました。理工学部校友会においては、役員の改選時期と重なり、加藤 透 新校友会会長の体制の下での活動がスタートいたしました。(→理工学部校友会 HP 等をご参照下さい)

本工化会の事業活動につきましては、前会長の下で4年ぶりに対面での通常総会を開催することができました。336名(内委任状256名)の出席によって開催され、貴重なご意見等が多数あり、活気ある総会となりました。また、懇親会(ホームカミングデーを含)も4年ぶりに開催することができ、会員同志の久しぶりの再会で盛大な宴となりました。総会、懇親会を通して、改めて「人との交流」の大切さを感じ、対面による継続の必要性を感じました。(→工化会 HP をご参照下さい)

さらに他の事業は、在学生の支援を中心としていた活動計画が、コロナ禍による活動範囲が緩和されたため、数年間中止となった事業も再開する方向となっています。

その中でも本年度の最重要事業の一つでもある「学生が卒業生に何をしたいか」を直接聞くための意見交換会を開催いたしました。学生生活、就職への取り組み等を支援することで、「工化会」の活動をさらに活性化し、在学生と卒業生の「絆」を深める目的で実施いたしました。

第1回目は、2023年10月28日(土)に「工化会学生メンバー懇親会」と称して、学部1年～博士前期課程2年の学生15名が参加し、グループワークと懇親会の2部構成で実施いたしました。グループワークには学生と年齢の近い卒業生9名が意見交換に加わり、活発な意見交換がされ、それぞれ集約した内容の発表も行い、そこでもまた参加者全員との意見交換を行いました。(→詳細は11-12頁をご参照ください)

その後の懇親会においても、本企画を実現させていただきました戸田篤志氏、前会長、副会長、庶務委員会の先生方、グループワークに参加された卒業生等も参加して、フリーディスカッションで親睦を深めることができましたと感じました。学生にとっては、先生、先輩らと直接意見交換ができる有意義な場となったのではないのでしょうか。今後も、微力ながら在学生への支援に努めて参ります。なお、第2回目は、3月の開催に向けて企画準備に入っています。

最後に、会員皆様のご健勝と新たに旅立つ卒業生の栄光をお祈り申し上げますとともに、引き続き工業化学部会へのご理解とご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

また、工化会活動の更なる活性化に向け、会員の皆様、各種同窓会等からのご意見、ご要望をお待ちしております。2022年9月に学内外の情報共有のツールとして「工化会ホームページ」を開設しておりますので、是非ご活用ください。

以上

## 令和5年度 就職状況



応化進路指導委員会

委員長 清水 繁

令和5年度の就職状況について報告いたします。本稿原稿を執筆している令和6年1月下旬時点で、学部卒業予定者の進路決定者は95%、大学院修了予定者の決定者は98%となっています。

今年度も売り手市場で求人件数はかなりの件数がありました。さらに、前年度まではコロナ禍の影響でオンラインでの面接が多かったのですが、ほぼコロナ禍前の対面形式に戻りました。しかし、全て対面形式かというオンライン形式併用もあり多様な形式での就職活動となっています。

今年度も「夢実現プロジェクト」をCSTホールで12月21日(木)午後に開催しました。今回で10回目となるイベントとなりました。企業ブースをできるだけ多く確保し、47社の参加企業で完全対面方式で実施しました。やっとコロナ禍前の形式に戻ることが出来てホッとしたというのが実感です。昨年度より3年生の後期にキャリアデザインという科目が設置され、その一環として夢実現プロジェクトが取り込まれたため、参加人数は3年生全員と大学院1年生の希望者で200名を越えました。毎年、このイベントを通じて参加いただいた企業に進む学生も多いので、対面方式での実施が良い結果となることを期待しています。

現時点で当大学院への進学予定者は46名(昨年度36名)で、昨年度に比べ増加しています。国公立大学の理系では進学率が8割程度と高く、修了後は研究開発職に就くことが多



PVC・合成樹脂 コンパウンドメーカー

昭和化成工業株式会社

〒348-0038 埼玉県羽生市小松台1-603-29

TEL 048-561-5221

高い技術力とノウハウが業界シェアトップレベルを支えています

昭和53年度卒 代表取締役社長 池本 俊一

いことを考えると、当学科でも進学率を高くし、修了後の職先を確保することが進路指導委員会の重要な使命となります。また、他学の大学院に進学する学生が12名ほどおりますが、当学科の大学院の魅力をよりアピールしていく必要があります。就職サポートとともに大学院進学を啓発する企画を実施する必要があります。

令和6年度の就職活動は従来通り3月に解禁で、内定は6月以降となっています。しかしながら、実質は水面下では前倒しで年明け早々から就職活動が始まっているとの情報もあります。また、インターンシップなどを通して優秀な学生の確保を試みているとのこと。このようなさまざまなチャンネルを通じての就職活動に対し、学生は柔軟に対応せざるを得ないのが現状です。進路指導委員会では、進路決定率100%に向け最善を尽くしておりますが、工化会の皆様にも多くの学生を受け入れていただけるようご協力頂けると幸いです。



写真：12月開催  
夢実現プロジェクト

参加いただきました  
企業の皆様  
ありがとうございました。



～アイデアを財産へ～



かもめ特許事務所

Kamome Patent Attorneys Office

231-0005 横浜市中区本町 1-7 東ビル 4階

平成10年卒 弁理士 荒井 滋人

info@kamomepat.com TEL: 045-319-4466

## クラス会・同窓会の報告

### 化学工学研究室（留和会）創設70周年 記念会開催報告

化学工学研究室の同窓会である留和会は、5年毎に開催している卒業生の会を、去る令和5（2023）年10月28日（土）に、研究室創設70周年を記念する会として、ホテルアルカディア市ヶ谷「大雪の間」（東京都千代田区市ヶ谷）にて催しました。今回は昭和54（1979）年3月卒業の日秋俊彦先生（元生産工学部教授）を会の実行委委員長に迎えて企画され、司会は研究室の教授の松田弘幸先生（平成11（1999）年3月卒業）にお願いしました。当日は、ご参加いただいた70余名の卒業生の皆様に、厚く御礼申し上げます。

最後に、今回は諸般の事情で欠席された卒業生の方々にも、次回、5年後の創設75周年記念会にはぜひご出席いただければと切望する次第です。なお、昭和44（1969）年3月卒業の小西英男様に撮影していただいた写真を本報告に添えさせていただきます。



文責：物質応用化学科教授 栗原清文（昭和58（1983）年3月卒業）

### 第5回有機合成化学同窓会総会 開催報告

令和5年9月16日（土）、日本大学理工学部駿河台校舎1号館『カフェテリア』にて、4年ぶりとなる第5回有機合成化学同窓会総会が開催されました。

有機合成化学同窓会は、お互いに会発足の起源を同じくする3組織（有機同窓会・みどり会・PS会）を統合し、2015年に新たに発足した同窓会です。

当日は現役学生も含め80名以上の会員が参加し、大変楽しい時間となりました。4年ぶりの開催ということもあり、久しぶりに顔を合わせた友人と互いの近況報告などで盛り

上がり、また、大先輩からお話を聴けたり、異業種の方との交流もあり…と、とても有意義な会でした。

この日には研究室開室 70 周年を記念した研究室ロゴの発表もあり、会員から応募のあったデザインに決定しました。



次回は 2024 年 10 月下旬に開催予定です。ぜひご友人をお誘い合わせのうえ、多くの皆様のご参加をお待ちしております。



## 四半世紀ぶりの謝恩会

1997 年(平成 9 年工業化学科)に矢野彰一郎教授と澤口孝志専任講師による新生「高分子合成研究室」矢野 1 期生として配属されました。1 期生ということで院生先輩がいない中、自由気ままな学生生活を過ごしていた 2 号館のことが懐かしく思い出されます。時に実験でオイルバスをひっくり返したり、液体窒素を使いすぎて怒られたのも 213 室と 245 室のイイ思い出です。

そんな我らも学部を卒業して四半世紀が経過しました。暫く交流が途絶えていましたが、チョットした切っ掛けから交流が復活し、澤口先生をお招きして謝恩会を開催することができました。最初に契機を作ってくくださった KM 氏と TK 氏に感謝申し上げます。謝恩会に集まった OBOG は 8 名ですが、痩せた人、太った人、若々しい人、それぞれの時間が過ぎていく様子。次回はもう少し参加者の輪を広げてみたいと思っています。

1998 年卒 HO



## 令和 5 年度 学会賞・学生の活動

本年度の物質応用化学科の学生・OB の学会賞受賞などの活躍をご紹介します。(集計期間：令和 5 年 2 月～令和 6 年 2 月)

### 【教員の部】

- ・梅垣哲士 (無機材) 無機マテリアル学会、学術賞
- ・松田弘幸 (化工) 化学工学会、論文審査貢献賞 (2022 年度)
- ・吉川賢治 (無機分) 第 90 回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会-第 122 回計測自動制御学会力学量計測部会第 40 回合同シンポジウム、優秀講演賞 (一般の部)
- ・向後光享 (無機材) 材料技術研究協会討論会 2023、優秀口頭講演賞 (一般講演の部)

### 【学生の部】

- ・内藤 研 (化工) 第 10 回高分子学会グリーンケミストリー研究会シンポジウム-第 24 回プラスチックリサイクル化学研究会研究討論会合同発表会、優秀発表賞
- ・青木 悠 (超分子) 第 42 回 固体・表面光化学討論会、若手優秀講演賞
- ・堀 優花 (超分子) 第 74 回コロイドおよび界面化学討論会、ポスター賞
- ・藤林音央 (有材) 第 72 回高分子討論会、高分子学会優秀ポスター賞
- ・堀 叶佑 (有材) 第 72 回高分子討論会、高分子学会優秀ポスター賞
- ・渡邊理玖 (超分子) 材料技術研究協会討論会 2023、ゴールドポスター賞
- ・小林玲央 (無機材) 材料技術研究協会討論会 2023、シルバールポスター賞
- ・名越隆哉 (無機材) 材料技術研究協会討論会 2023、シルバールポスター賞
- ・成澤瑛紀 (無機材) 材料技術研究協会討論会 2023、シルバールポスター賞
- ・並木啓太 (無機材) 無機マテリアル学会第 147 回学術講演会、講演優秀賞
- ・並木啓太 (無機材) (一社)化学情報協会、JAICI 賞
- ・川島さゆり (無機材) 理工学部学術講演会、優秀発表賞(口頭)
- ・高野弦貴 (有材) 理工学部学術講演会、優秀発表賞(口頭)
- ・阿部智哉 (超分子) 理工学部学術講演会、優秀発表賞(ポスター)

**工化会賞受賞者の声****令和5年度 80周年記念 若手研究者支援**

超分子化学研究室所属 細谷遥祐

(令和6年博士修了)

この度、工化会より80周年記念若手研究者支援の奨学金を戴くことになりました。関係者のみなさまに深く感謝申し上げます。新年度からは物質応用化学科 助手として着任し、工化会の一員として学生の教育および研究を邁進したいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

**令和5年度 80周年記念 若手研究者支援**

超分子化学研究室所属 本多丈太郎

(令和6年博士修了)

80周年記念若手研究者支援を戴き、関係者のみなさまに深く感謝申し上げます。新年度からは株式会社アイ・アール・システムに入社し日本の科学技術の発展に貢献できるよう日々努力いたします。今後とも皆様のご期待に添えるよう努めて参りますので、何卒よろしくお願申し上げます。

**令和5年度 80周年記念 奨学生支援**

無機機能分析研究室所属 天野壮琉

(令和6年学部卒)

私は鉄と二酸化炭素の反応から生成するシデライトと呼ばれる化合物の合成と利用方法に関する研究を行っています。工化会からのご支援により大学院に進学し、研究に打ち込むことができます。卒業後は社会に貢献できるよう頑張ります。ご支援ありがとうございます。

多目的燃料添加剤の製造・販売

**有限会社深澤化学研究所**

〒194-0041 東京都町田市玉川学園8丁目14-24

昭和52年卒 取締役副社長 深澤豊史

## 物質応用化学科 学生の活躍

物質応用化学科4年生の長森拓歩君は、関東理工系リーグゴルフ連盟が主催する大会にて、令和4年8月開催の関東理工系リーグ個人準優勝(トータルスコア74)、令和5年3月開催の理工系冬季リーグ個人第1位、令和5年9月開催の関東理工系リーグ団体第2位という優秀な成績を収めました。長森君は、昭和41年に創部された歴史ある日本大学理工学部ゴルフ部(理工学部公認サークル団体)に所属しており、学業とともにスポーツにも熱心に取り組んでいます。



## 日本化学会年会で実験教室

3月18日から21日にかけて船橋校舎で開催された日本化学会第104春季年会内で、小学生を対象とする化学実験教室「おもしろ化学実験」が開催されました。この実験教室の実施には、物質応用化学科2年生の菅原啓介君が部長を務める「科学サークルEBI」が協力しました。実験は、「食品の着色料で毛糸を染めてみよう」、「瞬間接着剤で指紋を検出しよう」の2テーマをおこない、盛況のうちに終了しました。この実験をきっかけに、化学に興味をもってくれる子供たちが少しでも増えることを期待しています。



チョコレート菓子の着色料  
で繊維を染める



理工学部校友会顧問および工化会顧問であられました田尻勝紀様(昭和32年卒)におかれましては、令和5年10月28日にご逝去されました(享年87歳)。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

本学元教授 山中健生 先生におかれましては、令和5年3月10日にご逝去されました(享年91歳)。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

## 工化会イベント 「学生メンバー懇親会」 開催報告



戸田篤志 (2002年修士修了)

2023年10月28日(土)に工化会として初めての企画となる「学生メンバー懇親会」を開催しました。これまで工化会では、現役学生の皆さんに実験用保護メガネや奨学金の贈呈を通して、学生生活へのサポートを継続してまいりました。これらの取組みは継続しつつ、時代の変遷とともに必要とされるサポートや、学生諸君の悩みも変わりゆく中で、工化会としてのサポートニーズを改めて理解し、今後活かしていくことを目的としています。

現役学生の皆さんへのサポートをさらなる意味あるものにしながらかつ継続するためには、現役学生の皆さんが、どのようなことに「困り」「悩み」「話したい」と思われるのか、そのニーズを理解し、工化会の今後の取組みに反映させることで、さらに充実したものにつながっていくはずで

このような背景より、工化会・庶務委員の小出優一郎さん(2014年博士修了)、高田昌子先生、青山忠先生と私を含めた4名を企画チームとして本イベント企画推進ならびに開催となりました。

本企画の主たる目的は「現役学生の皆さんがどのようなことに困り悩んでいるのか、そしてサポートニーズはどこにあるのか」を工化会として教えてもらい、理解することにあります。さらには、コロナ後の取組みとして対面実施とし、現役学生同士で先輩/後輩やOB/OGとのつながりを持っていただくきっかけとすることも目的としました。

実際には物質応用化学科の学部1年生から大学院生までの参加者を募集し、総勢で15名の現役学生の方に参加いただくことができました。(学部1年:8名、学部3年:2名、学部4年:1名、M1:3名、M2:1名)

この会はワークショップによる意見交換と、懇親会の2部構成で開催されました。第1部のワークショップでは、現役学生の皆さんの悩みや困っていること、知りたいことを自由闊達なディスカッションを通して抽出していくことにありました。この議論を行う上で、学年の違いによる悩みのポイントが異なることも想定し、大学1年生のグループと3年生～修士学生の2グループ制でのディスカッションを行いました

た。また、20歳代～40歳代のOB/OGも両グループに参加いただき、議論と意見交換を進めました。当然ながら、学生とOB/OGの間には同じような学生時代の悩みもあれば全く別のこともあり、世代によって社会環境や就職状況の違いが大きく影響していることも理解できました。ワークショップの最後には、参加者全員による両チームの意見発表に耳を傾け、学生の皆さんからのお考えを聞かせていただくことができました。

第2部の懇親会では、タワー・スコラのカフェテリアにて工化会役員や教職員の方々にも参加いただきながら、学年や立場を超えたコミュニケーションの場として楽しみながら色々な話をし、知り合いになるなどの交流が進められました。

これらの取組みは、冒頭に記載したような目的に加えて、将来的に工化会という集まりがOB/OGだけではなく、現役学生の皆さんが参加しても、就職活動やその後の社会人生活におけるネットワークづくりにメリットを見出せると感じていただける活動につなげていきたいと考えています。

今回、学生の皆さんからいただいたご意見を踏まえて、第2弾以降のイベント企画を進めてまいりたいと思います。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。



PVC・合成樹脂 コンパウンドメーカー

昭和化成工業株式会社

〒348-0038 埼玉県羽生市小松台1-603-29

TEL 048-561-5221

高い技術力とノウハウが業界シェアトップレベルを支えています

昭和53年度卒 代表取締役社長 池本 俊一

## 新 任 紹 介

無機材料化学研究室  
助手 向後 光亨



令和 5 年 4 月付で助手に着任いたしました向後光亨と申します。私は平成 31 年 3 月に博士前期課程を修了後、4 年間企業に勤めておりました。その後、博士号取得を機に教員として物質応用化学科に戻ってきました。着任してすぐは何もわからず右往左往していましたが、先生方に助けられながらなんとか 1 年を乗り越えることができました。研究は、炭酸カルシウムのキャラクター制御に関する研究を行っています。教員として、学生のときに受けた恩恵を少しでも返せるよう日々努めて参ります。至らない点もあるかと思いますが、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 退 任 の ご 挨拶

超分子化学研究室  
助手 伊藤 寿之



令和 5 年 4 月に物質応用化学科に助手として採用していただき、令和 6 年 3 月末をもちまして退職することとなりました。1 年という短い在職期間ではありましたが、由緒ある日本大学にて学生の教育に携わることができる貴重な機会をいただき、大変感謝申し上げます。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、以前のような対面での学生実験が本格的に再開される中、無事に専門化学実験を終了することができましたこと大変嬉しく思います。これまでご指導とご支援、ご協力いただきました本学科の先生方や非常勤講師の先生方、学科事務室の皆様、本当にありがとうございました。

## 退職される助手・臨時職員の皆様

- ・伊藤寿之 先生 (超分子化学研究室所属) 2024 年 3 月退職
- ・小池祥子 先生 (無機機能分析研究室所属) 2024 年 3 月退職
- ・中村亜紀 先生 (物質生命化学研究室所属) 2024 年 3 月退職
- ・朝隈紗月 さん (学科事務室所属) 2023 年 10 月退職
- ・森内千晴 さん (短期大学部ものづくり・サイエンス総合学科応用化学分野事務室所属) 2024 年 3 月退職
- ・罌 久美子 さん (材料創造研究センター所属) 2023 年 7 月退職

## 令和5年度 広報活動

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した影響もあってか、昨年度より多い約2,170名の高校生や親御様にオープンキャンパスでの物質応用化学科の展示へご参加いただくことができました。

今年の学科展示は、基礎科目から応用科目、そして卒業研究までの4年間の学びをイメージしてもらえるよう、「専門化学実験」の実験量の充実度と共に、基礎学力の向上を意識したカリキュラムと各研究室で取り組んでいる最先端の研究を紹介しました。

さらに大学での学びに興味・関心を持ってもらうため、2つの内容の模擬講義を実施しました。1つ目は、化学工学研究室の松田弘幸先生による【化粧品の化学】、2つ目は、物質生命化学研究室の鈴木佑典先生による【ダイエットだけではないアブラのお話～生命現象から疾患まで～】です。多くの方に受講いただき、質問も多数寄せられ大盛況でした。

今年の広報活動でも、学部生および大学院生の活躍が目立ちました。研究紹介だけでなく、大学生活についての質問も多く、明るく楽しいリアルな大学生活をイメージしてもらえたと思います。



図1. オープンキャンパスでの学部生・大学院生の活躍と模擬講義

今年度からは、広報用のポロシャツが新しくなりました！日本大学芸術学部の学生さんにデザインしていただいたポロシャツは、教員・学生、そして高校生からも大人気です！

そして、今年度は、SNSの1つであるInstagramでの情報公開に力を入れて活動を行いました。学科のイベントはもちろん、各研究室での成果報告、近隣の食事処の紹介など、様々な情報を公開しています。FacebookやXも含め、是非、たくさんアクセスして応援していただけますと幸いです。



図2. ポロシャツデザイン



図3. Instagram情報

## 令和5年度一日体験化学教室

### 広報委員会報告

昨年度から再開した一日体験化学教室ですが、本年度は7月23日(日)に開催しました。参加登録開始のお知らせを学科ホームページやSNS(学科インスタグラム、X(旧Twitter)、Facebook)などに掲載早々、多くの高校生からの参加申し込みがありました。その結果、募集からわずか2週間で募集定員の80名に達したほどでしたので、やはり大学施設で実験できる機会が注目されていることを改めて感じました。本年度は、『生活を快適にする無機材料ー不快な臭いを消すセラミックス材料ー』や『化粧品・香料における界面活性剤の役割』の新しい両テーマの影響も少なからずあったのではと考えています。

当日は栗原主任からの開会挨拶、当日のタイムスケジュールの確認、実験を安全に行うための注意点などのガイダンスを行いました。その後、各実験場所に移動して実験を行っていただきました。また、実験終了後の希望者を対象とした学科内の研究室・施設・設備見学会を開催しました。

実施後の高校生からのアンケートには、「高校では見たことも使ったこともない器具や試薬を使って実験を体験することができたため、とても楽しかった」、「化粧品がどのように作られているのかを知ることができてうれしかった」などの意見が多く寄せられました。実際に教員・学生たちとの触れ合いながら、実験を体験できたことに対して高評価を付けてくれていた高校生が多かったです。本年度も盛会のうちに終了することができました。これも皆様方のご支援によるものと感謝しております。来年度も化学の裾野を広げていきたいと考えています。



## 令和5年度工化会事業報告

令和5年度工化会通常総会は、4年ぶりに駿河台校舎1号館6階CSTホールにて令和6年5月20日(土)15時から役員・会員336名(内委任状256名)の出席を得て開催されました。総会では、庶務・会員・会報各委員会の令和4年度事業報告案、会計決算報告案および監査報告ならびに令和5年度事業計画案および会計予算案、役員改選案、理工学部校友会個人表彰の推薦案、会則改正についての審議を行い、これらを承認しました。また、工化記念基金委員会の事業報告・事業計画、80周年記念基金の決算報告・監査報告・予算報告を行いました。通常総会終了後、タワー・スコラ1階カフェテリアで懇親会を催しました。今年度の懇親会には前回の懇親会後に還暦を迎えられた卒業生をご招待し、盛会のうちにお開きとなりました。

令和5年度事業として、工化会ホームページの運用と新生への記念品贈呈および例年通りに学科主催行事の後援、工化会賞の授与、工化会主催の講演会の開催、工化時報の発行・発送が承認されました。また、学生が在学中に工化会との繋がりを持てるよう学生との懇親会を実施することになり「工化会学生メンバー懇親会」として2回開催しました。

工化会賞は卒業時に、在学時の学術・文化等において顕著な結果を残し、工化会の名誉を高めるに貢献した学生を工化会として表彰するものですが、本年度も厳正な選考を行い、受賞者合計46名には、3月25日(金)に大学院・学部・短大における学位記伝達式の際に賞状と記念品を贈り、その栄誉を讃えました。また、本学科の創設80周年記念事業として制定された若手研究者支援(大学院博士後期課程在学者が対象で当該年度の学位修得者)、奨学生支援(大学院博士前期課程進学予定の成績優秀者で特待生を除く)、奨励賞(在学中高難易度の資格免状等を取得、または好成績を収めた学生)については、若手研究者支援は2名、奨学生支援は1名、奨励賞については大学院1名・学部6名(短大該当者なし)に対して支援・授与が行われました。

令和5年度の工化会予算についてですが、本会では予算を経常会計予算と特別会計予算の2種類を編成しており、令和5年度経常会計予算は総額701.4万円で、その内訳は学生支援事業費が52.2万円、各種講演会・行事支援事業費として69.1万円、卒業生支援事業費は142.2.1万円、その他135.7万円、次年度繰越金が302.2万円であり、特別会計予算は総額655.9万円で、内訳は卒業生支援事業費に30.0万円、会費・寄付金郵便振替対応業務として4.5万円、国際交流支援に50.1万円、次年度繰越金として571.3万円計上しています。なお令和5年度の会員諸氏による会費の納入状況は、本

号の会費納入者氏名一覧をご覧ください。

令和5年度の工化会主催事業ならびに後援事業の概要を以下に報告します。

① 4月12日(水)

工化時報第39号 10,664通発送。

② 4月15日(土)

学科新入生オリエンテーションで新入生への保護メガネ贈呈。

③ 4月22日(土) 15:00~17:15

第1回役員会：役員74名出席(内委任状30名)。

④ 5月20日(土) 15:00~16:30

通常総会：会員336名出席(内委任状256名)。

⑤ 6月18日(日)

付属高校生のためのオープンカレッジ2023：付属高校生122名が来場。

⑥ 6月25日(日)

オープンキャンパス(駿河台)2023：445名の高校生が参加。

⑦ 7月22日(土)

第2回役員会：役員60名出席(内委任状27名)。

⑧ 7月23日(日)

令和5年度日本大学理工学部一日体験化学教室：高校生66名が参加。

⑨ 8月6日(日)、7日(月)

CSTオープンキャンパス2023：高校生1314名(6日：676名、7日：638名)が参加。

⑩ 10月28日(土)

第1回工化会学生メンバー懇親会：学生15名、役員・会員23名が参加。

⑪ 11月5日(日)

短大ものづくり&サイエンススクール2023：情勢を考慮し開催中止。

⑫ 12月2日(土) 16:00~17:00

第3回役員会：役員62名出席(内委任状37名)。

⑬ 12月7日(木) 15:00~15:00

講演会「OBによる現役学生のための就活セミナー」：学生153名が参加。

⑭ 12月21日(木) 13:00~17:00

2023年度夢実現プロジェクト：企業47社、学生(3年生180名、大学院生13名以上、計193名)が参加。

⑮ 2月3日(土) 16:00~17:30

工化会賞選考委員会・工化記念基金評価部会：委員22名出席(内委任状11名)。

⑯ 2月18日(日)、25日(日)

2月第17回合格者相談会：18日(日)：7組13名、25日(日)：3組3名、両日で10組16名(オンライン含む)が参加。

⑰ 3月2日(土)

第2回工化会学生メンバー懇親会：学生13名、役員・会員15名が参加。

⑱ 3月25日(土)

令和5年度物質応用化学専攻・同学科ならびに短大ものづくり・サイエンス総合学科応用化学分野学位記伝達式。

⑲ 3月25日(土)

工化時報第40号13,500部発行。

以上 庶務委員会

# 会費,寄付金納入者名簿 (令和6年2月1日現在)

昭和19年卒	久村 拓也	佐藤 貞男	仲野 一次郎	加藤 勇
脇 幹夫	依田 恵市	野村 友次	野口 文雄	佐藤 馨
日暮 忠弘	池岸 敬宜	中村 紀史	原 襄輔	田中 秀也
昭和21年卒	笹原 孝	桔梗 隆	堀 是治	富田 潤一
石川 幸一	昭和33年卒	小串 照宗	山崎 恭弘	山崎 博
斉藤 光平	加賀 勤之助	昭和37年卒	横田 力男	昭和43年卒
昭和22年卒	柏崎 敏郎	奥山 正之	和田 高伸	浅井 保雄
大川 襄治	熊谷 祐一	梶山 秀矩	渡辺 進作	宇智田 俊一郎
昭和23年卒	才木 義夫	清水 大三	青木 匡	海上 幸三
伊藤 譲	齋藤 二郎	庄司 翠	香山 武夫	北村 正孝
昭和25年卒	田口 稔孫	津崎 信隆	菊池 靖彦	村岡 研一
吉田 耕一	中島 和紀	長谷川 修一	北村 隆	山梨 乾一
昭和26年卒	箕浦 滋	廣瀬 丈久	小原 英雄	梅北 司
鈴木 信夫	高橋 悌人	丸林 功	鈴木 良治	佐藤 精二
垣内 宏	吉田 靖	宮沢 武次	田中 誠悦	進藤 宣昭
昭和27年卒	猿渡 義男	石岡 龍右	高松 武生	松村 清利
柏木 治彦	昭和34年卒	磯崎 昭徳	橋本 信之	昭和44年卒
近藤 住吉	大久保 勝弘	神保 進	富士 光男	安藤 純一
東 昭	加藤 嘉之	長友 良久	昭和40年卒	石井 和夫
石田 宏	藤森 信正	原 周二	稲葉 清彦	石山 利男
高田 芳行	松浦 豊紀	昭和38年卒	上田 輝之	井上 隆
昭和28年卒	山谷 保二	井野 二陸	牛山 恵次	大橋 正宣
佐藤 正巳	横川 徹也	大野 維夫	沖本 武且	北島 徹夫
鈴木 一成	見野 澄夫	大橋 隆	佐藤 瑞雄	桜井 浩平
田村 佐重	昭和35年卒	大村 俊晴	土田 敏一	新藤 豊彦
仁禮 誠二	安達 昭郎	木村 次雄	飯田 忠雄	田中 敦
森 不二男	青木 滋夫	久喜 徹	飯野 宏治	菰原 洋二
幡野 隆	青木 弘	小松 洋	高橋 志郎	花井 秀之
堀 武	石原 義弘	栗田 公夫	武井 秀彦	八幡 順一
吉川 和夫	笠井 啓也	永田 正巳	高間 伸一	小栗 勝治
昭和29年卒	黒木 妙子	長谷川 寶	丹野 隆善	萩原 喜代治
井上 秀雄	金澤 成光	原田 文雄	西脇 鉄雄	昭和45年卒
嶋田 稔	定方 聰博	宮崎 興三郎	幡野 匡彦	小林 満
寺島 昌訓	塩澤 進	渡部 長幸	三谷 治郎	滝戸 俊夫
長山 勝政	篠 大太郎	原 章	清水 博太郎	辰市 祐久
八田 肇	須永 晋	荒谷 作松	飯原 打越	土田 久
横田 一郎	滝澤 文男	上田 恒彦	有田 喜一	永島 一男
米山 廣保	東海林 栄	長嶋 潜	昭和41年卒	永田 勝彦
高橋 久雄	難波 純一	白石 益郎	石毛 哲男	服部 正隆
浅川 和昭	野島 秀次郎	藤掛 省吾	塚田 悦造	平塚 良一
昭和30年卒	原 幹夫	藤野 裕	中澤 豊	富川 晃一
綾野 怜	町田 収	昭和39年卒	藤池 誠治	森川 美次
寺島 賢治	吉岡 靖隆	赤池 昭彦	宮城 晃	森崎 正美
古川 新	渡邊 高章	秋本 幹夫	大内 邦夫	加村 尚喜
植竹 和也	倉形 邦英	石川 和正	沢田 金吾	佐藤 宗衛
近藤 練太郎	小峰 光弘	岩沢 実	館 敏夫	瀬戸 博
昭和31年卒	須藤 隆司	梅原 達朗	彦田 一夫	寺田 高德
青木 直三郎	関口 勝	金田 敏一	杉山 雅次	昭和46年卒
伊藤 博国	島田 洋子	神谷 中	真下 清	神崎 良一
神戸 徳蔵	昭和36年卒	渡辺 久和	玉應 亨三	川島 英郎
小松原 彬	石井 照明	北本 義征	昭和42年卒	菊田 茂
高橋 一正	宇賀治 正名	児玉 義宏	荒川 直弘	小谷 将彦
横山 富雄	小川 昌太郎	斎藤 伸之	岡見 宏道	齋藤 政久
石塚 和三	越智 健二	斉藤 博之	金塚 美喜男	杉田 康一
柿澤 正彦	飯戸 斌	斉藤 守園	鈴木 啓輔	鈴木 重衛
綱島 康晴	木佐貫 秀彌	鈴木 功	鈴木 健之	吉広 邦夫
田畑 調友	木村 繁夫	鈴木 庸一	栃木 勝己	丹野 幸久
昭和32年卒	佐藤 進	瀬尾 宏	中井 忠男	三宅 久利
綱代 良太郎	斎藤 博	武田 幸久	豊田 文江	冬室 誠
竹原 晃	炭田 幸宏	奈良木 亨丞	長谷川 元保	昭和47年卒
東海林 正	高柳 裕臣	中澤 甫	古阪 一昭	駒屋 伸雄
高木 孝	村田 敏弘	中田 博	渡部 高尚	齊藤 菊夫

丹呉 秀博	前川 幸生	末澤 二郎	赤嶺 直美	平成20年卒
鶴 達郎	山田 勝彦	昭和58年卒	高田 昌子	小出 優一郎
何木 正芳	山田 忠雄	岩崎 好高	坂田 純	平成21年卒
藤木 孝人	生方 正之	飯田 隆久	平成4年卒	佐藤 克哉
森 伸一	新国 貞幸	栗原 清文	桐山 崇一	原 秀太
昭和48年卒	昭和53年卒	小林 洋明	齋藤 利文	吉田 隼人
加来 文隆	伊藤 俊広	田村 精一	佐藤 裕司	平成22年卒
櫻川 昭雄	奥田 直史	竹村 忠憲	土井 康正	掛川 瞳
重藤 峻一	小林 康秀	高山 利治	林 由浩	高木 晃一
渋谷 修	諏訪 僚一	高田 千春	松田 和夫	平成23年卒
瀧口 誠典	高木 英行	長 茂輝	関根 智一	春日 龍史
戸早 哲太郎	原田 哲也	谷田貝 仁恵	平成5年卒	鈴木 利彦
中島 慎司	星原 晃	原川 優子	小泉 公志郎	平成24年卒
中村 宗光	堀木 清二	前田 篤	米田 哲也	工藤 慎平
長谷川 一夫	黒澤 鎌二	矢島 浩之	平成6年卒	中山 麗
平林 明夫	昭和54年卒	山田 美穂子	小池 芳暁	平戸 祐喜
山中 操	浅野 祥司	谷田貝 隆	佐々木 典世	平成25年卒
渡辺 明典	小笠原 幸道	久保田 博明	石黒 香織	伊東 哲博
大高 由輝	太田 延幸	寺嶋 一彦	遠山 岳史	金子 剛大
川津 義人	小坂 佳則	竹内 功	平成7年卒	近藤 駿平
坂口 信昭	清水 尚登	昭和59年卒	岡田 賢識	田村 高大
藤井 克彦	椎野 宏明	大坪 利彰	奥村 佳代子	早川 麻美子
昭和49年卒	下田 清隆	小峰 昌弘	谷合 哲行	松山 史典
青木 壮慈朗	杉山 文敏	清水 繁	平成8年卒	村松 優
飯塚 修一	中村 眞理子	小嶋 千津美	土山 人一	平成26年卒
菅野 昭	服部 洋一	中井 佳子	仁平 勉	野中 裕名
久保 隆	藤生 康彦	昭和60年卒	原野 満実子	工藤 絵美
小林 正男	堀田 稔	太島 佐知子	平成9年卒	平成27年卒
佐藤 憲一	目良 昌三	石見 勝洋	浮谷 基彦	南澤 宏湖
佐藤 哲	谷藤 善美	満田 泰志	木田 秀一	横地 慶亮
佐藤 芳明	横森 英俊	矢澤 聡隆	谷川 実	杉浦 裕昌
澤口 孝志	坂本 恵一	本澤 正博	林 秀憲	井上 悦宏
末木 康行	坂本 信子	高橋 宏和	平成10年卒	平成28年卒
湯川 吉美	昭和55年卒	昭和61年卒	武田 誠一郎	野田 和彦
野澤 美文	小笠原 一恵	片桐 正志	島村 寛人	吉岡 英俊
野中 昭二	小笠原 守人	小嶋 芳行	荒井 滋人	平成29年卒
野原 孝司	金子 堅司	那賀 恵美子	伊掛 浩輝	岡部 紗千
元木 英二	砂端 栄治	福元 俊之	横田 昇平	向後 光亨
山崎 純一	丸山 博秀	小林 義幸	眞智 絹代	橋本 雅弘
南 茂樹	森 弘通	昭和62年卒	平成11年卒	平成30年卒
昭和50年卒	波岡 宣彦	加藤 慎次郎	浅野 賢一	岡野 貴洋
上田 賢二	昭和56年卒	勝又 雅子	樋口 孝夫	森 春果
上條 治夫	池田 実	幾留 孝司	平野 壮哉	平成31年卒
小菅 信博	伊藤 保雄	清水 恵樹	松田 弘幸	小池 祥子
汐澤 日出夫	葛 蔵造	昭和63年卒	平成12年卒	永井 宏明
神保 尚幸	後藤 真一	石井 陸子	山崎 章	令和5年卒
野原 正男	熊谷 一弘	乙川 千博	伊掛 美里	中山 大輝
服部 信和	植松 烈平	三井 宏	戸田 篤志	教職員
中野 功	大沼 明	村山 竜一	亀田 博之	青山 忠
末森 博文	三橋 昭男	吉村 美恵子	平成13年卒	西村 克史
昭和51年卒	有川 俊一	鎌田 哲彰	怡土 良信	柳 泰典
内野 好夫	矢作 妙子	中道 幹芳	生田目 猛次	梅垣 哲士
重盛 正男	木屋 幸蔵	平成元年卒	藤田 尚之	鈴木 佑典
三井 勉	昭和57年卒	磯崎 誠也	平成14年卒	松下 祥子
前田 勉	大内 高弥	木方 真理子	角田 雄亮	工藤 雅孝
昭和52年卒	黒坂 和弥	黒田 美和子	横田 美紗子	
大窪 峰裕	井上 みどり	丸山 浩司	吉川 賢治	
栗村 嘉明	小暮 勝彦	佐野 伸一	藤代 昭子	
荻原 謙二	小們 幸夫	和田 香織	平成15年卒	
斉藤 孝	中村 明裕	平成2年卒	堀川 達哉	
最勝寺 公英	野澤 昌史	石川 恵子	平成16年卒	561名
酒井 久男	久松 美樹	小川 貴子	石井 完	
志田 邦昭	三根 郁夫	上條 潤	石川 英章	
瀬戸 秀明	伊藤 和宏	平成3年卒	平成17年卒	
土岐 正史	内田 陽子	大山 直人	赤澤 寛行	
深澤 豊史	桑折 敬子	川野辺 晃生	平成19年卒	
古越 宣正	山浦 信介	竹内 秀光	伊藤 拓哉	
古橋 雄二	佐藤 慎一	穴山 正之		

## 編集後記

令和5年度授業科目の中、オンライン科目は専門教育科目で2%、基礎及び教養教育科目で16%が実施されましたが、次年度はコロナ前の対面授業にほぼ戻ります。しかし、オンラインに対する適正が高い科目もあり、こうした授業を望む声もまた一部の学生や教員から聞かれます。動画技術の向上やZoom等のストリーミングツールに慣れたこともあり、学修効果のあるオンライン授業を皆無にする必要もなく、対面とオンライン授業の適切な基準についても考えさせられます。

話は変わりますが、1-3月期の地上波(日本テレビ、日曜、22:30~23:30)にて、「厨房のありす」というドラマが放映されました。主人公の父が大学教授という設定で、日大理工が撮影を協力して映像に船橋校舎が多く出てきます。撮影時の様子を表紙に載せましたので、皆さんに懐かしんでいただけると幸いです。(会報委員 平成5年卒 米田哲也)

## お知らせ

### 令和6年度の行事予定

- 6/1(土) 工化会通常総会・懇親会・ホームカミングデー  
詳細は工化会ホームページにてお知らせします
- 7/28(日) 一日体験化学教室
- 8/3(土)、8/4(日) CST オープンキャンパス 2024
- 11/3(日) 理工学部ホームカミングデー(船橋校舎)
- 11/3(日) 船橋キャンパスウォッチング

### 連絡先

連絡先：工化会ホームページをご覧ください

- ・住所変更に関するお問合せ

<https://koukakai.org/address/>

- ・住所変更以外のお問合せ

<https://koukakai.org/contact/>, FAX: 03-3293-7572



工化会ホームページ

## 広告募集

工化時報では会社広告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲載料 1件：10,000円

## 発行所

東京都千代田区神田駿河台1-8  
日本大学理工学部工化会会報委員会

西村克史, 谷川 実, 遠山岳史, 永島一男, 萩原俊紀, 米田哲也

学科ホームページ, <https://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>

工化会ホームページ, <https://koukakai.org/>